

第5学年1組 体育科学習指導案

1 単元名 ティーボール

2 運動の特性

攻守を規則的に交代して、ティーに乗せたボールをバットで打ち、ベースを回って得点したり、アウトサークルに素早くボールを運んで相手の得点を防いだりして、勝敗を競うことが楽しい運動である。

3 児童の実態

(1) 知識・技能の状況について

本学級の児童は、「打つ」「捕る」「投げる」といったティーボールに必要な技能は全体的に低いといえる。特に打つことに関しては空振りをしてしまったり、ティー台の下の方を打ったりするなどボールが前へ全く飛ばない児童が多かった。また、バットを使って打つということは初めての経験であることから、バットの持ち方やボールに対する立ち方などもよくわかっていない様子であった。

(2) 思考・判断・表現の状況について

「自分に合っためあてを立てることができますか。」という質問に対し、「できる(15名)」「資料があればできる(11名)」と回答している。これまでの体育学習で、課題解決型の学習を経験してきているので多くの児童がめあてをもち、学習に取り組むことに慣れていることがわかった。しかし、過去の学習カードのめあての記述を見ると、「〇〇する。」「△△したい。」といった一文で終わっている児童も見られた。また、外国籍のため日本語に対する理解が低いことから「めあてがもてない(2名)」という児童もいるので、個別で声かけ等の支援が必要である。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の状況について

本学級の児童は、ボール運動が好きな児童が約86%と多い傾向にある。しかし、自身の技能の低さやボールに対する恐怖心から、ボール運動に対してマイナスなイメージをもつ児童もいる。

4年生時はベースボール型の学習としてキックベースを行っている。キックベースに対しては約86%の児童が「楽しかった」「どちらかといえば楽しかった」と回答している。ボールをフェアグラウンドに入るように蹴り、全力で走って得点することや、得点を防ぐためにアウトゾーンにいる守備者にボールを投げたりすることなど、ベースボール型ゲームの特性に触れながら楽しむことができたようである。特に、攻撃の際にボールを思い切り蹴り飛ばすことが上手くいったときに楽しさを感じているようである。一方、楽しくなかったことの原因としてセーフかアウトかの判定で揉めたことが多くを占めた。昨年の学習の様子について児童たちから話を聞いた際には、楽しかったと回答した児童も同様の考えを述べていた。

今回ティーボールがどんな運動なのか知るために動画を視聴した。その後のアンケートでは全員が「ティーボールをやってみたい」という肯定的な意見であった。また、ティーボールの学習で大切なことは「バットを強く振る」ことや「キャッチの技術」などの技術面のことや、「協力をすること」といった態度面のことを挙げていた。ティーボールをやってみたいという肯定的な考えをもっている一方で、ルールを守らない人がいることや同じ人ばかりプレーすること、技能面の低さからの不安などから運動に対する意欲の低下を招く原因があることもわかった。

4 研究の視点と学習の手立て

(1) 市教研体育部の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 研究の視点と手立て

視点1 課題を見付け解決できる学習過程の工夫と指導内容の明確化

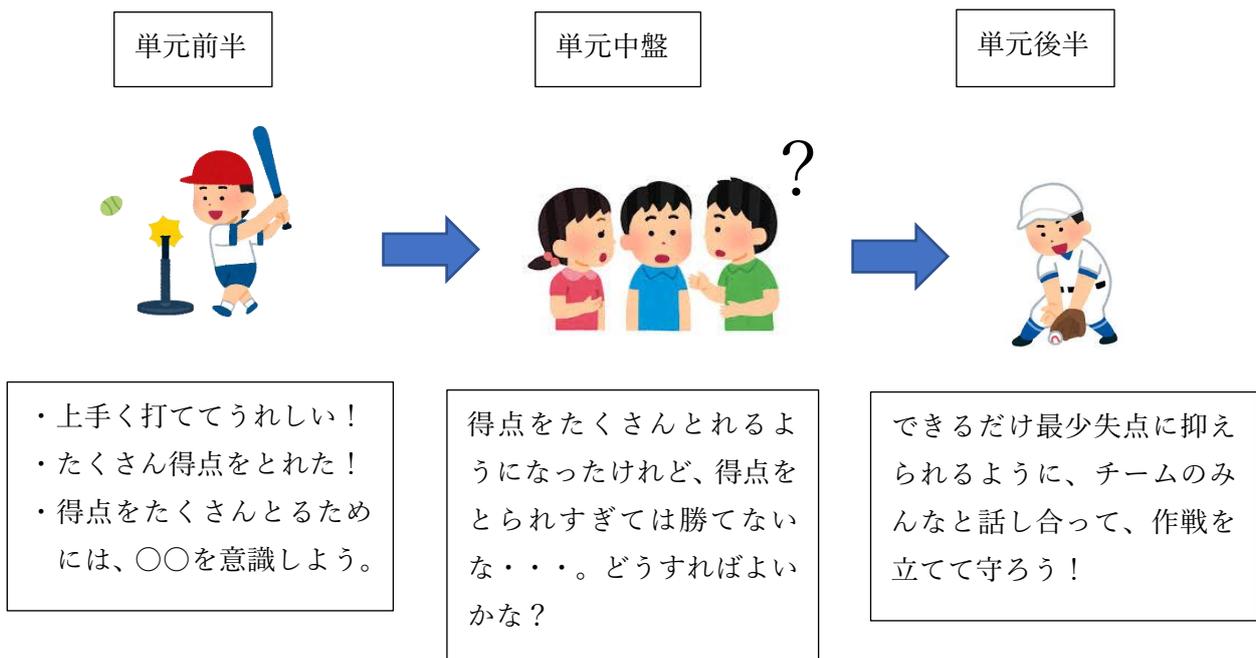
<手立て>

○児童の意欲と思考に沿った指導

4年生時のキックベースの経験から、攻撃の際に上手く蹴り飛ばし、得点を挙げることに楽しさを感じている児童が多いことが実態調査からわかった。そこで、まずは攻撃に重きを置き、ティーに乗せたボールを打ち、得点を挙げることの楽しさや喜びに十分に味わわせていく。そこで、単元前半では「どうすればたくさん得点できるか」ということをねらいとし、学習を進めていく。攻撃についてより思考し、打つことの楽しさを味わうことができるように以下のことについて取り組んでいく。

- ①学習カードに、目標点数と実際にとった点数を書く欄を設けることで、めあてが攻撃に向くようにする。
- ②つながる運動は場を多く設けることで、一人当たりが打てる回数を増やす。
- ③振り返りでは上手くいった攻撃の仕方、打つときに意識するとよいポイントなどを話し合い、得点をとるための方法について共有していく。

攻撃に関する技能や得点をするために必要な思考が高まるにつれて、勝つためには得点を最少失点に抑えていくことに自然と目が向くと考える。そこで、単元中盤から後半にかけては学習活動①の総当たり戦を通して気付いた自分たちや相手のチームの特徴をふまえ、「どうすれば最少失点に抑えられるか」という守りに重きを置いた視点で学習を進めていく。



視点2 運動の楽しさや喜びを膨らませる関わり合いの工夫

<手立て>

○用具の工夫

体格や技能に大きな差があるため、全員が同じ用具を使用しての学習だと、上手く扱えないことで児童の意欲が低下すると考える。そこで、用具については児童自身が扱いやすいものを選択できるようにしていく。

バッティングティー

コーンの上に牛乳パックを乗せた簡易的なティーを用意する。

自身の身長に合わせ、打ちやすい高さを選べるよう、3種類（20 cm、25 cm、30 cm）の高さの牛乳パックを用意する。



バット

2種類の中から、自身が扱いやすいものを選択できるようにする。



①長くて細い
ミートがしづらいが、遠くへ飛ばしやすい。



②短くて太い
遠くへ飛びにくいですが、ミートしやすい。

アウト板

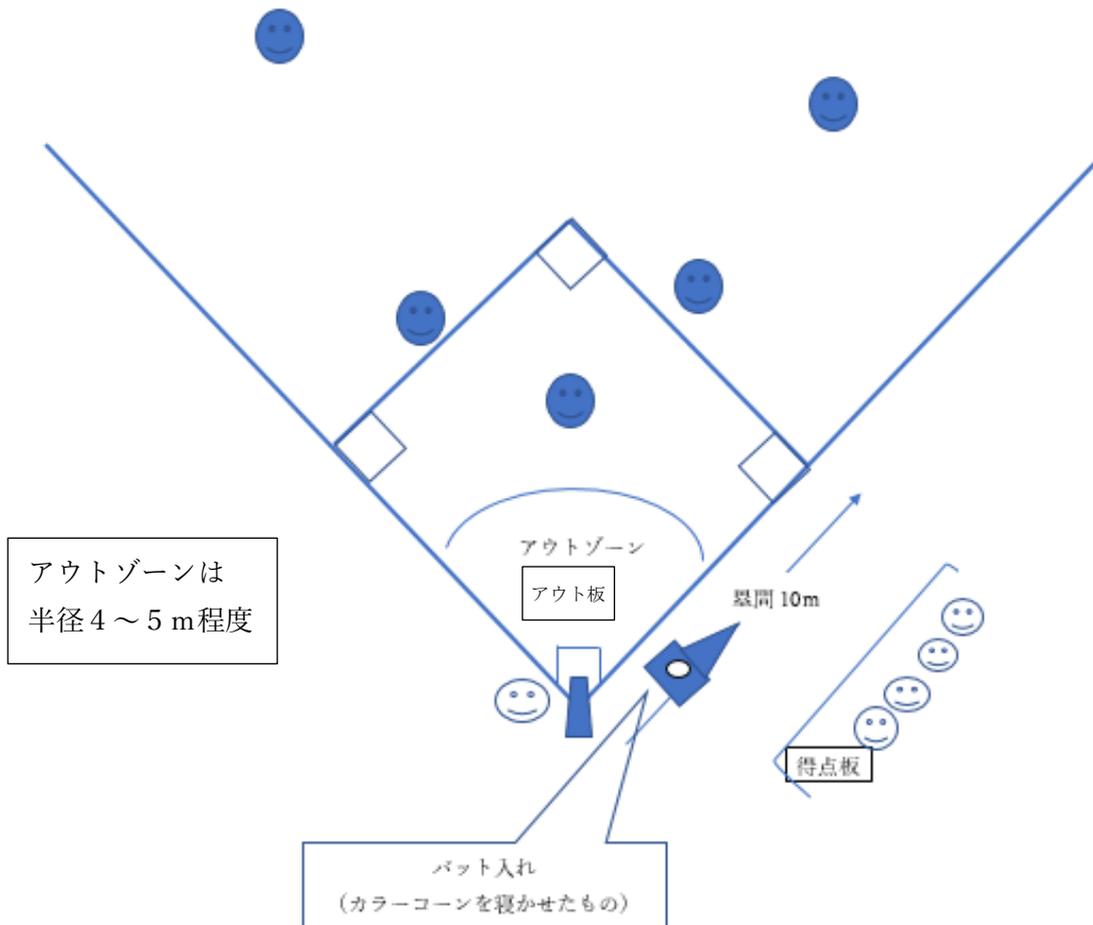
実態調査から、送球を捕球する技能が低い児童がいることがわかった。そういった児童でも、送球を受けることができるようにするためにアウト板を使用する。また、アウト板を使用することで、送球する側の児童ものが広がり、狙ったところに思い切って投げることができるだろう。

○ルール of 工夫

児童たちの実態として、「ルールを守りたい」という強い思いがある。昨年度のキックベースの学習の際に、アウトとセーフの判定や、アウトサークルの入り方などについて揉め、試合が中断するといったことがあったそう。そこで、特に守備の際のルールを簡易化することにより、プレーに夢中になる中でも、全ての児童がよりルールを守りやすくなるようにしていきたいと考えた。

- ・アウトの判定→アウト板に当てる。(アウト板にボールが当たった音で判定をすることで、判定をわかりやすくする。)
- ・アウトゾーンに入っている状態でアウト板に当たればアウトとする。

場の図



アウトゾーンは
半径4～5 m程度

バット入れ
(カラーコーンを寝かせたもの)

捕球した所から、アウトゾーンにボールを投
げて入れ、アウトゾーンにいる守備者が持つ
ているアウト板にボールが当たればアウト。

5 単元の目標

- (1) ティーボールの行い方を理解するとともに、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。 (知識及び技能)
- (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) ティーボールに積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

6 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ティーボールの行い方について言ったり書いたりしている。	①チームの特徴に応じた作戦を選んでいる。	①ティーボールに積極的に取り組もうとしている。
②止まったボールをフェアグラウンド内に打つことができる。	②攻撃や守備の作戦について、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	②ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。
③打球方向に移動して捕球したり、捕球する相手に向かって、投げたりすることができる。		③勝敗を受け入れようとしたり、仲間の考えや取組を認めようとしたりしている。
④守備の隊形をとって得点を与えないようにすることができる。		④場や用具の安全に気を配っている。

7 指導と評価の計画

	1	2	3	4 (本時)	5	6	7
学習のねらい	学習の進め方を知り、見通しをもつ。	得点ができるような攻撃の仕方を知り、ゲームを楽しむ。			チームの特徴やその時の状況に応じて守備位置や役割を決めたり、攻め方や守り方を考えたりして楽しむ。		
0 45	オリエンテーション ・道すじ ・ルールやマナー ・つながる運動 ・ためしのゲーム ・ためしのゲームの振り返り	準備運動、主運動につながる運動 (パワーアップタイム)					
		学習内容① 簡単なルールでティーボールを楽しむ。 (総当たり戦)			学習内容② 自分や相手のチームの特徴にあった作戦を選んでティーボールを楽しむ。 (対抗戦)		
知・技		① 観察・カード		② 観察・カード		③ 観察・カード	④ 観察・カード
思・判・表			② 観察・カード		① 観察・カード		② 観察・カード
態度	②・④ 観察		② 観察	① 観察	③ 観察		

8 指導計画

	学習内容と活動	教師の指導・支援○ 評価◇																
はじめ	<p>【オリエンテーション】</p> <p>1 ねらいや道すじ、運動の行い方を知り、今後の学習の見通しをもつ。</p> <p>1) 学習のねらい、道すじ</p> <p>2) マナーや約束</p> <p>3) 用具の使い方、場の準備・片付けの仕方</p> <p>2 つながる運動</p> <p>・ゴムゴムバッティング</p> <p>穴あきボールとペットボトルをゴムひもでつなぎ、そのボールをティー台にのせて打つ。</p> <p>3 試しのゲーム</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="4">対戦</td> </tr> <tr> <td>第1コート</td> <td>赤</td> <td>対</td> <td>青</td> </tr> <tr> <td>第2コート</td> <td>黄</td> <td>対</td> <td>緑</td> </tr> <tr> <td>第3コート</td> <td>白</td> <td>対</td> <td>オレンジ</td> </tr> </table> <p>4 場の片付け</p> <p>5 学習カードの書き方を理解する。</p>	対戦				第1コート	赤	対	青	第2コート	黄	対	緑	第3コート	白	対	オレンジ	<p>○拡大した学習カードを掲示し、指し示しながら説明することで話の内容を視覚化する。</p> <p>○バットの持ち方や打ち方が視覚的に理解できるように、掲示資料も使って説明する。</p> <p>○ゲームがスムーズに進行しないチームには教師が入り、動き方を助言する。</p> <p>◇ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。 【態度②】</p> <p>◇場や用具の安全に気を配っている。 【態度④】</p> <p>○テレビにカードを映し、視覚化して説明することで、カードの書き方を理解できるようにする。</p>
対戦																		
第1コート	赤	対	青															
第2コート	黄	対	緑															
第3コート	白	対	オレンジ															
なか①	<p>1 学習の場作りをして、準備運動をする。</p> <p>○チームごとに協力して場作りをし、キャプテンを中心にストレッチを行う。</p> <p>2 チームごとにつながる運動を行う。</p> <p>・ゴムゴムバッティング</p>	<p>○協力して、素早く準備ができるよう声をかける。</p> <p>○十分にストレッチを行うことで、けがの防止につながることを伝える。</p> <p>○上手くボールにミートできない児童には、一度バットをボールに合わせ、そのまま引いて打つように声をかける。</p>																

3 本時のめあてやねらいを確認する。

簡単なルールでティーボールを楽しむ。(総当たり戦)

【めあての例】

- ・得点を取るために、できるだけ遠くに打つ。
- ・相手のいないところを狙って打ち、点をとる。
- ・構えるときの体の向きを変えて、飛ばしたい方向に打ち分けたい。
- ・ルールをしっかりと守って、仲良くプレーする。
- ・いいプレーがでたら、ほめる。

4 試合を行う。

【基本のルール】

- ・1チーム4～5人(6チーム)→人数差がある場合、守備は少ない方に合わせ、攻撃は多い方に合わせる。
- ・打者が1巡したら攻守交代する。
- ・2回表裏(2回は勝っているチームから攻撃する。)
- ・セルフジャッジで進行する。
- ・判定があいまいな場合はじゃんけんで決める。

【攻撃】

- ・ファール、三振はなし
- ・ボールを打ったら走者となり、塁を踏むごとに1点。アウトになるまで何周してもよい。
- ・チーム全員が攻撃したら攻守交代する。
- ・バットをコーンに入れたら+1点

【守備】

- ・捕球した所から、アウトゾーンにボールを投げて入れ、アウトゾーンにいる守備者が持っているアウト板にボールが当たればアウト。
- ・フライアウト無し。

2時間目

第1試合

- ①赤 対 青
- ②黄 対 白
- ③緑 対 オレンジ

第2試合

- ①赤 対 白
- ②青 対 緑
- ③黄 対 オレンジ

○自分のめあてを再確認する機会を設けることで、学習中に意識しながらプレーできるようにする。

○得点することができないチームや児童には、構え方やスイングの仕方などの打ち方について助言する。

◇ティーボールの行い方について言ったり書いたりしている。 【知・技①】

◇止まったボールをフェアグラウンド内に打つことができる。 【知・技②】

○「ボールはこうやって打つといいよ」や「コーンに確実に入れよう」など得点をとるためのよい方法についてアドバイスし合っている児童を称賛する。

攻撃や守備の作戦について、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。

【思・判・表②】

○ルールやマナーを守り、真剣に応援しているチームを称賛する。

○ミスには「ドンマイ」「惜しかった」「次頑張ろう」など前向きな声をかけるとよいことを伝える。

◇ティーボールの試合や練習に積極的に取り組もうとしている。 【態度①】

◇ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。 【態度②】

	<p>3 時間目</p> <table border="1" data-bbox="209 237 496 398"> <tr><td>第1 試合</td></tr> <tr><td>①黄 対 青</td></tr> <tr><td>②緑 対 赤</td></tr> <tr><td>③白 対 オレンジ</td></tr> </table> <table border="1" data-bbox="512 237 794 398"> <tr><td>第2 試合</td></tr> <tr><td>①白 対 緑</td></tr> <tr><td>②赤 対 黄</td></tr> <tr><td>③青 対 オレンジ</td></tr> </table> <p>4 時間目</p> <table border="1" data-bbox="220 488 509 649"> <tr><td>第1 試合</td></tr> <tr><td>①黄 対 緑</td></tr> <tr><td>②白 対 青</td></tr> <tr><td>③赤 対 オレンジ</td></tr> </table> <p>5 振り返りをする。</p> <p>①チームのよかったところ、反省点</p> <p>②得点をとるために有効な攻め方</p> <p>③次回のめあて</p> <p>6 整理運動・後片付けをする。</p>	第1 試合	①黄 対 青	②緑 対 赤	③白 対 オレンジ	第2 試合	①白 対 緑	②赤 対 黄	③青 対 オレンジ	第1 試合	①黄 対 緑	②白 対 青	③赤 対 オレンジ	<p>○「有効な作戦を自チームで秘密にするのではなくクラス全体で共有し、みんなで上手になって、より白熱した試合をしよう」という考えを伝え、より意見を出しやすい雰囲気を作る。</p> <p>○出た作戦は掲示物に書き込み視覚化することで、チームや自分のめあてを選んだり考えたりすることの一助とする。</p> <p>○めあてを考えるとが苦手な児童には、掲示物の例から選択するよう声をかける。</p> <p>○試合で使用したコート of 道具を、協力して片付けるように声をかける。</p>
第1 試合														
①黄 対 青														
②緑 対 赤														
③白 対 オレンジ														
第2 試合														
①白 対 緑														
②赤 対 黄														
③青 対 オレンジ														
第1 試合														
①黄 対 緑														
②白 対 青														
③赤 対 オレンジ														
<p>な か ②</p>	<p>1 学習の場作りをして、準備運動をする。</p> <p>○チームごとに協力して場作りをし、キャプテンを中心にストレッチを行う。</p> <p>2 チームごとにつながる運動を行う。</p> <p>1) ペアキャッチボール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーバウンド ・1～2バウンド ・ゴロ ・ランダム <p>2) 90 秒ゲーム</p> <p>○攻撃側は順番にリレー形式で、たくさん打つ。</p>	<p>○協力して、素早く場づくりをするよう声をかける。</p> <p>○十分にストレッチを行うことで、けがの防止につながることを伝える。</p> <p>○投げる方向が定まらない児童や捕ることが苦手な児童には短い距離から始め、少しずつ離れるよう声をかける。</p> <p>○ボールを後ろに逸らしてしまう児童には、捕球の体勢や手の出し方を助言する。</p>												

○守備側は捕球したボールをアウト用コーンのそばに置かれたかごの中に入れる。

○90秒後にかごに入っているボールの数が少なかった攻撃側のチームが勝ち。

○夢中になって周りに人がいることに気が付かずバッティングをしてしまう児童には、安全性を確保するために待機場所にいるよう声をかける。



3 本時のめあてやねらいを確認する。

自分や相手のチームの特徴にあった作戦を考えてティーボールを楽しむ。(対抗戦)

・前時のゲームをもとに今日の守り方を考える。

【守り方の例】

- ・一か所に固まらずに、広がって守ろう。
- ・○チームの△さんは遠くまで打つのが得意だから後ろに下がって守ろう。
- ・□さんは投げるのが得意だから外野を守るとよいね。
- ・打球の正面に入って、まず後ろにそらさないように前に止めよう。

4 試合を行う。

○対戦相手を確認し、あいさつをしてゲームを行う。

○チームで前向きな声をかけあい、より楽しくゲームを行えるよう声をかける。

○よいプレーやアドバイスをしているチームを称賛する。

○コートを巡回し、守り方の作戦が上手いかないチームには守備位置や打球が飛んでからの動き方について助言する。

<p>5 作戦タイムをとる。</p> <p>6 2回目の試合を行う。</p> <p>7 振り返りをする。</p> <p>①チームのよかったところ、反省点</p> <p>②失点を最少失点で抑えるために有効な守り方（作戦）</p> <p>③次回のめあて</p>	<p>○打球の正面に入ってボールを捕ることができない児童には、足の運びや手の出し方などを助言する。</p> <p>◇打球方向に移動して捕球したり、捕球する相手に向かって、投げたりすることができる。</p> <p style="text-align: right;">【知・技③】</p> <p>◇守備の隊形をとって得点を与えないようにすることができる。</p> <p style="text-align: right;">【知・技④】</p> <p>◇チームの特徴に応じた作戦を選んでいる。</p> <p style="text-align: right;">【思・判・表①】</p> <p>○「1試合目のよかったところと反省点」「どうしたら1試合目より失点を防いだり、得点をあげたりすることができるのか」という視点を元に話し合いを進められるよう声をかける。</p> <p>◇攻撃や守備の作戦について、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p style="text-align: right;">【思・判・表②】</p> <p>◇勝敗を受け入れようとしたり、仲間の考えや取組を認めようとしたりしている。【態度③】</p> <p>○作戦タイムに考えたことが上手くいっているか確認し、上手くいっている場合には称賛したり、上手くいっていない場合は助言したりする。</p> <p>○「有効な作戦を自チームで秘密にするのではなくクラス全体で共有し、みんなで上手になって、より白熱した試合をしよう」という考えを伝え、より意見を出しやすい雰囲気を作る。</p> <p>○出た作戦は掲示物に書き込み視覚化することで、チームや自分のめあてを選んだり考えたりすることの一助とする。</p> <p>○めあてを考えることが苦手な児童には、掲示物の例から選択するよう声をかける。</p>
--	---

	8 整理運動・後片付けをする。	○試合で使用したコート of 道具を、協力して片付けるように声をかける。
ま と め	<p>【学習のまとめ】</p> <p>○止まったボールを打つことができたか。</p> <p>○打球の飛んだ方向に動き、ボールを捕ったり、相手に向かって捕りやすいボールを投げたりすることができたか。</p> <p>○得点を入れるためや得点を防ぐための作戦を話し合い、立てることができたか。</p> <p>○励まし合いや協力し合い、認め合いの声掛けができたか。</p> <p>○ティーボールの学習に楽しく取り組むことができたか。</p> <p>○ルールやマナーを守って学習に取り組むことができたか。</p> <p>○場や用具の安全に気を配って学習に取り組むことができたか。</p>	